

業者委託による蔵書点検実施

古謝久美子*

琉球大学附属図書館情報サービス課医学情報係

I. はじめに

琉球大学附属図書館（以下、当館）は、本館及び医学部分館の2館の図書館がある。図書資料を一元的に管理する中央図書館制をとっており、医学部分館の購入資料の受入や会計業務は本館の情報管理課で行い、医学部分館内では情報サービス課医学情報係が主にサービス業務を行っている。

図書館システムは全館でNTTデータのNALISを使用しており、蔵書点検時に業者へ提供した所蔵ファイル類は全て当システムから出力したファイルである。

図書の表紙には図書IDが印字された紙のバーコードシールが貼り付けられ、それらをバーコードリーダーで読み込んで貸出・返却等の管理を行っており、ICタグによる管理は行っていない。

II. 過去の蔵書点検

琉球大学（以下、本学）では図書に貼り付けされたバーコードを読み込んで蔵書点検を実施している。

点検作業は主に図書館職員とアルバイトのスタッフで春季・夏季休業中の比較的利用者が少ないシーズンに2、3週間程かけて開館時間中に実施していた。

少人数で短期間に資産登録されている対象の蔵書約70万冊を点検するのは困難であり、配架区分等で区切った点検が行われてきた。そのため全館の蔵書の点検を終了するまでに5年程かかっており、結果、期間中に蔵書の増減や移動によって蔵書点検で得られたデータが効率的に活用できていない実情があった。

III. 業者委託の蔵書点検の実施

平成25年3月5日（火）から3月9日（土）までの5日間、本学で初めて業者委託による蔵書点検を実施した。

蔵書点検対象は資産のうち主に図書資料とし、製本雑誌は対象外とした。また、一部のモノグラフが目録上は図書であるが雑誌扱いの配架になっており、今回はそれらも対象外とした。図書館システムから抽出したデータによる点検対象冊数は本館・医学部分館あわせて67万冊弱となった。

1. 業者選定

業者選定については、図書館総合展で職員が情報を収集し、具体的実施方法について業者から説明を受けた。金額的には高額であったが、希望の時間帯に一気に点検ができ、調査結果から不明本リストだけでなく複数のリストも提供される等のメリットがあることで業者委託をすることとなった。

業者決定までに数社へ見積依頼したが、深夜の作業であること、沖縄という地理的条件で対応困難等の理由により最終的には棚卸し専門業者である株式会社エイジスへ依頼することが決定した。

当館が提示した仕様書に記載された実施方法は以下のとおりである。なお、ハンディターミナル等の機器類は全て業者の持ち込みとした。

（抜粋）

- ①ハンディターミナル等で指定した範囲の資料について、貼付された図書ID（バーコード）を読み取る。文字のみの図書IDが貼付されている場合、または図書ID（バーコード）が汚損等で機械読み取りができない場合は手入力でデータ入力し、該当資料すべてのデータを読み取る。
- ②実際に棚ごとに冊数を数え、読み取ったデータの数と照合し読み取り漏れを防ぐ。
- ③読み取ったデータは配架場所（配架コード）別、棚番号別、段番号別とし、csv形式ですべて提供するものとする。
- ④読み取ったデータと附属図書館が作成したマスターデータを照合し、その整合結果を付加したデータも併せて提供するものとする。

*Kumiko KOJA : 〒903-0215 沖縄県中頭郡西原町字上原207.
(2015年1月13日 受理)

2. 蔵書点検前準備

委託業者決定後、業者による書架の下見が実施され、後日、対象書架が記載された図面が提出された。図面では書架の棚や段にも細かく番号が振られ、図書1冊ごとのアドレスが特定できるようになっていた。

図書館側の担当者は現場でそれら図面をチェックし、対象書架の範囲に間違いがないかを再確認した。

その後、当日渡す予定のファイルと同様の対象の書架の配架区分ごとの図書IDや配架区分コードを含む所蔵データを抽出したものを事前に業者へ渡した。その際、1日あたりの点検件数が13～14万件程度になるよう点検作業場所の順番についても業者と調整を行った。

3. 蔵書点検実施

蔵書点検は本館・医学部分館ともに閉館後に実施された。平成25年3月5日(火)から3月9日(土)の期間中、毎日20名程の派遣スタッフが動員されていたようであるが正確な延べ人数は把握していない。当時本館の春季休業期間の閉館時間は17時だったため17時から翌朝6時までの時間帯で点検作業が行われた。医学部分館は22時まで開館しており、点検作業は、3月5日の22時の閉館後に本館からスタッフの一部が移動して開始した。

蔵書点検当日は貸出返却処理が終了した後、貸出中の図書を除いた所蔵ファイルを出力して業者へ渡した。

22時の作業開始には医学部分館の職員1名が立ち会ったが、特に問題がないことを確認して開始後30分程度で職員は帰宅した。

深夜に業者だけの作業となった場合、気になるのはセキュリティの問題である。本館では作業中建物は施錠し、大学の守衛に依頼して作業終了後の解錠・施錠を代行してもらった。一方、医学部分館では22時に全て施錠した後、業者の退館は館内からのみ開くオートロック式の非常口を使用させた。

業者への注意事項としては、点検対象の閲覧室、書庫、及び指定の手洗い、休憩所以外の出入りは行わない、建物が病院と隣接していること、及び夜間であったため建物外は静かに移動することをお願いした。

医学部分館の点検対象約47,000件のデータの読み込み作業は6時間程で終了した。

4. 蔵書点検翌日

医学部分館で点検作業があった翌朝3月6日、職員出勤時に館内の閲覧室等を巡回して確認した際に数点気になることがあり、業者へ連絡をとった。

スタッフが読み取り終了を示すために貼ったと思われる付箋紙が棚に全て残ったままとなっていたほか、床にシールを剥がした後のシートが散乱していたため業者へ清掃を依頼した。

時間に追われた作業になるため細かい点でスタッフに注意が行き渡らないこともあるので、作業終了後の原状回復についても業者ときちんと話しておく必要を感じた。

5. 納品データ

蔵書点検期間、毎朝業者から前の晩の作業の読込データを納めたCD-ROMとそれらを出力した紙媒体が納品された。

業者の読込データは図書館側が作業直前に渡していた所蔵データファイルとマッチングを済ませて納品された。

納品データの種類は以下のとおりである。

- ①全体の読み込みデータ
- ②不明本リスト
- ③アンマッチリスト
- ④コード重複リスト

①と②のリストの説明は省略する。

③は所蔵データにマッチしなかったIDのリストで、他の配架区分の図書が紛れている場合がほとんどである。

④は同じ図書IDが貼られた図書のリストで、医学部分館だけでも20件あった。これらは、遡及入力時のバーコードシールの貼り間違いが原因と考えられる。

なお、①の全体の読み込みデータの主な内容は、書架棚番号、段、冊、配架コード、図書ID、アンマッチフラグ、日時等である(図1)。①のデータには他にも業者側で利用すると思われる数値も記載されていたが、詳細が不明なため割愛する。

業者からのデータの一番の特徴としては、②の不明本リストを除いて全ての読み込みデータにはそれらの棚の場所がわかるアドレス情報が付与されていることであった。結果、探している本がどの棚の、何段目、何番目にあるかということが即座にわかり重宝した。

5日間で本館・医学部分館で合計662,658冊の読込が行われた。当初の予定冊数より数千冊少ない結果となったが、その要因としては表紙に図書IDシールが貼られていないため読込ができなかったほか、点検対象図書が実際に書架になく不明になっていたことがあげられる。

6. 蔵書点検後処理

蔵書点検後の処理としては、従来どおり図書館システムで点検データ処理も行ったが、今回の点検では、翌朝

部屋番号	書架棚番号	段	冊	配架コード	図書ID	アンマッチフラグ	不明(業者側利用データ)				日時
11	0101	1	1	0144	0020020053027	0	1	0	0	0	2013/03/05 23:05:13
11	0101	1	2	0144	0020020053173	0	1	0	0	0	2013/03/05 23:05:15
11	0101	1	3	0144	0020020053192	0	1	0	0	0	2013/03/05 23:05:17
11	0101	1	4	0144	0020020053239	0	1	0	0	0	2013/03/05 23:05:21
11	0101	1	5	0144	0020020053262	0	1	0	0	0	2013/03/05 23:05:22
11	0101	1	6	0144	0020020053296	0	1	0	0	0	2013/03/05 23:05:27
省略											
11	0302	5	55	0441	0000957002210	0	1	0	0	0	2013/03/06 02:13:52
11	0302	5	56	0441	0000957002169	0	1	0	0	0	2013/03/06 02:14:01
11	0302	5	57	0441	0000947002995	0	1	0	0	0	2013/03/06 02:14:13
11	0302	5	58	0441	0020057000208	0	1	0	0	0	2013/03/06 02:14:17
11	0302	5	59	0441	0020087000226	0	1	0	0	0	2013/03/06 02:14:18
11	0303	1	1	0441	0020067000651	0	1	0	0	0	2013/03/06 02:15:38
11	0303	1	2	0441	0020047000165	0	1	0	0	0	2013/03/06 02:15:44

※例

(書架図面例)

部屋番号11	8	7	8	7	8	7
	9	6	9	6	9	6
	10	5	10	5	10	5
	11	4	11	4	11	4
	12	3	12	3	12	3
	13	2	13	2	13	2
	14	1	14	1	14	1
書架番号	0101-		0201-		0301-	
	0114		0214		0314	

← ※例
書架番号0302
5段目57冊目

図1. 読込データと書架図面例

には業者から前日の読込箇所について不明本やアンマッチなどのリストが同時に提供されるので、現物確認の作業にすぐに取りかかれた。

IV. 業者委託のメリットとデメリット

過去の蔵書点検と比較して今回の業者委託による蔵書点検についてメリットとして以下の3点が上げられる。

- ①利用者サービスに影響しない。
- ②職員の負担軽減。
- ③従来に比べ精度の高い点検結果が得られた。

閉館後深夜に及ぶ点検作業ができたため、利用制限等をせずに通常どおり開館することができた。業者委託をせずに今回と同じ範囲の点検を勤務時間内で職員とアルバイトだけで実施した場合、1週間ほど臨時閉館を要しただろう。

また、従来の蔵書点検では、通常業務を行いながら追加の作業となり、職員の負担は大きかった。今回は初めての委託作業だったため事前調整等の準備時間は要したが、点検作業及び点検後の各種リスト作成等の業務はかなり軽減された。

従来に比べて精度の高い点検結果が得られたというメ

リットについては、前述したとおり当館が従来実施してきた複数年にわたる点検方法に起因する部分が多い。

デメリットとしてあげられるのは、予算の確保が難しい点である。蔵書点検を職員とアルバイトの人員で行っていた当館の場合、期間と人数にもよるが1回あたり15～20万件程度読込作業で数十万円の支出であるが、今回延べ5日間、本館・医学部分館合わせて約67万件的読込作業で委託金額は約195万円であった。

今後も定期的な蔵書点検の実施は必要であるが、本学において業者委託を継続する場合は予算を計上して確保することが課題になるだろう。

V. おわりに

今回の業者による蔵書点検には、管理系・サービス系ともに多くの職員が携わり業者選定からデータ処理まで実施した。

業者委託による蔵書点検について執筆を依頼された際、実施から1年半以上経過していたので記憶が曖昧な部分もあり躊躇したが、本館の職員にも情報を提供してもらいどうにか書き上げることができた。本稿が読まれた方の役に立てば幸いである。